

intertek news

Vol.83

ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

01 新年のご挨拶

02 特集 03 仕掛学 — 確実な組織活動のために(2)

～ストレスなく運用できるマネジメントシステムに役立つ仕組み～

04 News&Topics

- ▶ 世界のISO認証件数が発表
- ▶ 北陸技術交流テクノフェア2023に出席
- ▶ 「健康優良企業 銀の認定」取得
- ▶ Q&A

05 審査の現場から

- ▶ お客様紹介
(株式会社FLOSFIA)
- ▶ 連載よみもの「審査員の心理」(環境編)
「緊急事態への準備及び対応(1)」

06 連載よみもの

- ▶ 審査員リレーエッセイ
「児島歴史探訪」
(審査員 増田 洋志)
- ▶ 環境とISO14001
「水素プロジェクトの乱立／見直される電解法」

07 お客様からのお便り

- ▶ 「中華麺の歴史を変える」
(ありがとう製麺株式会社)
- ▶ 「子や孫、ひ孫の時代まで自然を残す解体業者」
(アイ・アール株式会社)

08 研修コースのご案内

- ▶ ちょっといっぴく
- ▶ 研修コース案内
- ▶ 受講生からのお便り
(株式会社加藤均総合事務所)

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所

◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。

<https://ba.intertek-jpn.com/>

新年のご挨拶

代表取締役 きむら ともあき
木村 朋聡

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、皆様のご支援のおかげで、インターテック・サーティフィケーションの認証事業にとって重要かつ成果のある一年となりました。2024年は、日本法人設立から30年を迎える年にあたり、さらなる飛躍を計画しております。新年のあいさつの機会を通じて、弊社の、「世の中に、品質と安全、サステナビリティ(持続可能性)をもたらす」というパーパス(存在意義)と、社会のサステナビリティの重要性についてお話ししたいと思います。



サステナビリティは、現代のビジネスにおいてますます重要な要素となっています。世界中の企業は、環境への負荷を減らし、社会的責任を果たし、経済的にも持続可能な成長を達成する必要があります。日本においても、ますます持続可能性に焦点を当て、環境への配慮がある企業としての成長が求められています。それを実現するために、インターテック・サーティフィケーションでは、サステナビリティ認証により、お客様のビジネスの競争力を高め、新たな市場を開拓するための鍵となるように努めていきます。

サステナビリティ認証は、企業の製品やサービスが環境に与える影響を評価し、改善のための指針を提供します。インターテック・サーティフィケーションでは、お客様の環境への負荷を減少させ、リソースの効率的な使用を促進し、社会的責任を果たすためのパートナーとして、必要なお手伝いをいたします。また、サステナビリティ認証は、お客様の取引先や、サプライチェーンとの信頼を築くための有力なツールとしても機能します。

弊社は、サステナビリティ認証の分野で長年にわたる経験と専門知識を持っており、お客様に最高品質の認証サービスを提供してきました。ISO各規格や農場管理、森林認証、海洋管理協議会認証、国際持続性カーボン認証、衣類のリサイクルトレーサビリティのテキスタイルエクステンジ認証、ホテルや商業施設などの安全衛生審査や、世界中に広がるサプライチェーンの二者監査に至るまで様々なサービスにて、お客様のサステナビリティの実現をサポートしております。2024年においても、持続可能性の重要性はさらに高まり、気候変動、資源の枯渇、社会的不平等などの新たな課題に対応を迫られることとなります。私たちインターテックでは、これらの課題に対処するために協力し、解決策を見つけるサポートをしていきます。

2024年、私たちはさらなる新たなサービスのイノベーションと、お客様との品質パートナーシップの構築に取り組み、サステナビリティ認証の領域の拡大と、サービス品質を向上させるために最善の努力を惜しまない決意です。皆様のビジネスが環境への影響を最小限に抑え、社会的責任を果たすことをサポートし、市場での競争力を高めるお手伝いを続けます。

最後に、皆様のご支援と信頼に感謝申し上げます。お客様とのパートナーシップは、私たちにとって非常に貴重であり、新たな一年を共に歩むことを楽しみにしています。社会のサステナビリティの重要性を理解し、共に持続可能な未来を築いていくことを願っています。

新年が皆様にとって幸せな一年であり、成功と繁栄に満ちたものとなりますようお祈り申し上げます。

仕掛学

確実な組織活動のために(2)

～ストレスなく運用できる
マネジメントシステムに役立つ仕組み～

トランジション・サポートセンター
代表

柴田 圭介

「人は面白そうなことを進んで行う」ということに着目し、ついやりたくなるような魅力的な「仕掛け」を用いることで自然と行動が変わってくるという「仕掛学」¹⁾。この「仕掛学」を応用することで、組織のメンバーがストレスを感じることなくルールに従って作業をすることができるようになると前回お話しいたしました。

1

「ナッジ」とは

「仕掛学」とよく似た概念として、2017年のノーベル経済学賞をシカゴ大学のリチャード・セイラー教授が受賞されたことで、一躍有名になった「ナッジ:Nudge」があります。強制することなく、自発的に人々の行動を変容させるという意味では「仕掛学」と非常に似通っています。

「ナッジ」の例として挙げられるのが、臓器移植の同意を示すカードです。日本では同意する場合に「○」をつけますが、現状では同意されるのは10%程度にとどまるとされています。逆に、同意をしない場合に「○」をつける国もあります。その場合ほぼすべての方が「○」をつけず、同意したと認識されています。これは、どちらも変更する「手間」＝「○」をつけることをコストと考え、わざわざ行動を起こさないからだと考えられています。

ナッジは絶対的に正しいことに誘導することに意義があるとされています。例えばサブスクリプションで契約の場合に、3か月無料でとりあえず契約をさせておいて、解約の手間をコストと考え継続するように仕向けるような

前号に続き、人の行動を変える『仕掛け』を対象にした新しい学問、「仕掛学」について取り上げます。今号ではさらに、「仕掛学」に似た概念といわれる「ナッジ」との違いや事例なども交えてご紹介しております。前号の内容と合わせて、システム活性化のご参照にしていただけましたら幸いです。
(編集部)

ことがあります。このようなナッジは、契約者に決して望ましいとはいえないかもしれません。セイラー教授はこのような利用者にとって不利益を誘導するようなナッジは、「スラッジ:Sludge」と呼び区別することを提案しています²⁾。

2

「仕掛学」と「ナッジ」の違い

「仕掛学」と「ナッジ」はよく似た概念ともいわれますが、仕掛学の場合は新たな選択肢に「つい選びたくなる」ような魅力的な効果を与えて、自由に選んでもらうようにします。この魅力の力が強いほど選択されるようになりますし、その魅力に対して興味を持たれない場合には選ばれなくても仕方がないと考えます。どの選択をするのかは自由であり、選んだ結果に対して「騙された」と不快に思われることはありません。

ナッジの場合には、選択をすることが正しいと認められている場合に、そちらに気づかないように上手に(行動経済学的なメリットを用いることで)誘導する手法であるとされています³⁾。

3

仕掛けを見つけてみましょう

作業現場を観察していると、実質的に作業手順を遵守しているけれども、作業員それぞれで微妙に作業方法が異なる場合があります。特に、効率よく作業をしている人には、特徴的な作業方法があったりします。

このように作業員は、日々の作業の中でそれぞれに効率を考えて自発的に「やりやすい方法」を模索し、工夫をされることが多くあります。このような「やりやすい方法」は言い換えれば「ついやりたくなる方法」すなわち

「仕掛け」であり、それを利用して作業をされているとも考えられます。

このように作られた「仕掛け」は本人も意識しておらず、現場で共有化が難しいこともあります。作業現場を観察することで、「隠れた仕掛け」を見つけ、それを作業現場で共有化したり、作業手順に明確化することで、确实かつ効率的に作業ができる現場を作り出すことができます。

「ナッジ」vs「仕掛け」 考え方の違い

ナッジによる誘導



期待するルートを選択するように
メリット・経済学的効果で「誘導」する

仕掛けによる誘導



期待するルートを選択するように
仕掛けの魅力(遊び心)で「誘引」する

(著者作成)

4

意図とは異なる仕掛け

手順はしっかりと策定しているのに、なぜか同じような失敗を繰り返してしまうことがあります。また、作業者が勝手に手順を変えてしまうようなこともあります。このような手順の場合には、「悪い仕掛け」が潜んでいることが考えられます。システムを構築した管理者がスラッジのように悪意をもって手順を作ることは考えられません。ではなぜ手順を守らないようなことが起こってしまうのでしょうか。そこには、「悪い仕掛け」が潜んでいるかもしれません。

マネジメントシステムを構築した方が、意識しないで「つい間違った方法をやりたくなるような仕掛け」を作ってしまったとも考えられます。このような「悪い仕掛け」は意図せずに作ってしまっているのです。発見することが非常に難しいです。失敗を責めるのではなく本当の原因を追究することで発見することができます。

5

仕掛けを作るには

仕掛けを作るアイデアのためのツールなども考案されています。また、仕掛け学会では毎回ユニークな

仕掛けが発表されています。難しく考えることなく、楽しむことが一番大切なこととも言えます。このように、仕掛けを発想するツールを活用することで、自由な発想とユニークな視点からFAD要件を満たす、そそられる仕掛けを是非発想して、楽しく働き甲斐のある職場を作り出してみてください 4) 5)。

〈参考文献〉

- 1) 松村真宏、仕掛け学、東洋経済新報社(2016)
- 2) リチャード・セイラー／キャス・サンスティーン著、遠藤真美訳、「実践 行動経済学 完全版」、日経BP社(2022)
- 3) 板谷祥奈、竹内穂波、松村真宏、『ひじでつく』ナッジ、『そそる』仕掛け、第3回仕掛け学会(2018.3)
- 4) シカケコンテスト2020 応募要領(<https://mtmr.jp/contest/>)
- 5) 山西康太、松村真宏:SOHT:仕掛け発想支援ツール、第10回仕掛け学会 SIG-TBC-010-04(2021)

筆者紹介

トランジション・サポートセンター 代表
(<https://www.eonet.ne.jp/~transition/>)

柴田 圭介 (しばた けいすけ)

1958年生まれ。大阪府立大(現大阪公立大)大学院工学研究科修士課程修了。化学系素材メーカーにて、研究開発、品質管理、事業企画、人材育成等担当、定年後トランジションサポートセンター設立。マネジメントシステムや人材育成など組織の改革を支援活動している。



世界のISO認証件数が発表

ISO(国際標準化機構)は、2022年末時点での世界のISOマネジメントシステム規格の認証件数について集計・調査した“ISO Survey 2022”を公表しました。

ISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO45001(労働安全衛生)、ISO/IEC27001(情報セキュリティ)、ISO22000(食品安全)、ISO13485(医療機器)、ISO39001(道路交通安全)を含む16規格を対象に集計されたもので、16規格の認証総数は前年比23%増と大幅に増加。増加要因としては、中国での認証数の増加と今回よりIAF CertSearchからのデータが追加されたことによるものと。また、調査に参加する認証機関は各年で変動があり、今回の日本の認証数の一部減少が見られるのは、主に前回調査に参加した認証機関の不参加によるものとされています。IAF CertSearchは、IAF(国際認定フォーラム)による登録認証機関向けの最大のグローバルデータベースで、今回からの連携により、ISO Surveyの結果の精度がさらに向上されたとのこと。

規格別認証数では、ISO9001は1,265,216件(前年比17%増)で、国別では

日本は38,916件で6位、ISO14001は529,853件(前年比26%増)で日本は20,892件で2位でした。その他、ISO27001は6,987件、ISO22000は1,833件、ISO45001は1,948件でした。この調査の詳細は、ISOのホームページでご覧いただけます。
(<https://www.iso.org/the-iso-survey.html>)

北陸技術交流テクノフェア2023に出展

2023年10月19-20日に福井県産業会館で開催された北陸技術交流テクノフェア2023に出展いたしました。産官学が一堂に会する本フェアは、北陸最大規模の総合展示会で、34回目となる今年の参加企業・団体数は延べ180を超え、来場者数は2日間で約18,000人とコロナ禍以前の水準に回復、地元メディアからも大々的に取り上げられていました。

技術連携を目的とする本フェアには、北陸チーム4名が参加し、ISO規格の他、FSC(森林認証)、MSC(海洋管理協議会認証)、テキスタイルエクステンジ認証などのサステナビリティ関連を含めた各種認証サービスもご紹介させていただきました。今回、北陸では初の出展でしたが、期間中、弊社お客様をはじめ、様々な業種、組織の方々と交流、情報交換さ

せていただき、弊社の様々な事業活動の周知を含めいい機会となりました。弊社ブースへお越しいただいた皆様、心よりお礼申し上げます。

「健康優良企業 銀の認定」取得

インターテックグループでは、社員の健康と安全を最優先事項と考え、職場の健康づくりを推進しています。この度、インターテック・サーティフィケーションは、グループ会社と共に、その継続的な取り組みが認められ、2023年10月3日付けで、健康保険組合連合会東京連合会が実施する健康優良企業認定制度において、一定の成果を収めた企業に与えられる「銀の認定」を取得いたしました。

銀の認定では、健康診断受診率、健診結果の活用、健康づくり・環境の整備、食、運動、禁煙、心の健康に関する取り組みが評価されます。グループでは、健康サポートアプリの導入、健康づくりイベントの実施、ウェルビーイング関連の社内ニュースレター配信など、プロジェクトチームを中心に様々な取り組みを進め、この評価に繋がったものと思います。今後もさらなる健康経営の推進を進めてまいります。



健康優良企業

認定番号: 健銀第2744号

Q&A

今回は、統合審査に関するご質問についてご紹介いたします。

Q1. ISO 9001と、ISO 14001を別々に取得して数年が経ち、慣れてきましたが、年2回の審査で準備が重複しているところもあります。審査を一度にまとめて受けることはできますか？

A1. 可能です。弊社では、複数の規格を同時に受審する統合審査も実施しています。統合審査を受けていただくためには、まず組織のマネジメントシステムで、両規格の主要プロセスが、統合されている必要があります。統合審査では、各規格の共通項目を無駄なく審査し効率化が図れるため、重複している各審査の準備・対応も一度で済み、年間の審査回数も少なくなります。また、多くの場合、各規格の単独審査日数(工数)の合計と比べて、審査日数(工数)が短縮されることも統合審査のメリットです。ただ、年2回の審査を1回にまとめるため、1回あたりの審査日数(工数)は単独審査より増えることになります。ご不明な点等ありましたら、弊社までお気軽にご相談ください。

Q2. 統合審査への変更で何か注意点はありますか？

A2. 統合審査の受審時期は、現在のISO 9001又は、ISO 14001のどちらか都合のいい定期審査時期にまとめていただくことが一般的です。ただ、システム統合により、両規格の審査サイクルを合わせるため、再認証時には、いずれか先に再認

証時期を迎える規格に合わせて、両方の規格を再認証することになります。そのため、認証取得時期がずれている場合は、一方の規格の再認証審査が繰り上がるため、現在の有効期限から大幅に変更となりますのでご留意ください。

また、統合審査の基本条件の一つとして、認証範囲が揃っていることが必要です。ISO 9001は業務単位での受審が可能です。ISO 14001は、業務単位ではなく組織全体での受審が必要となります。(例:ISO 9001:「土木工事」、ISO 14001:「土木工事、産業廃棄物の中間処理」など。) 認証範囲が大きく異なる場合、統合審査が難しい場合もありますので、ご相談ください。

なお、認証済みの規格に、新たに別の規格を追加認証する場合(例:ISO 9001認証企業が、ISO 14001を新規取得など)、その初回審査からの統合審査はできません。(次のサーベイランスから統合審査が可能となります。)

統合審査のご希望、ご質問等は、各エリア営業、もしくは東京事務所営業部までお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ】

東京事務所 Email: info.ba-japan@intertek.com

※弊社ホームページからもお問い合わせいただけます。

(<https://ba.intertek-jpn.com/contact/>)

お客様紹介

株式会社FLOSFIA 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

株式会社FLOSFIA様は、2011年に設立された京都大学発のベンチャー企業です。京都大学桂キャンパスに隣接して拠点を構え、同大学で開発された最先端材料のコランダム構造酸化ガリウムを搭載したパワーデバイス(半導体素子)及び成膜製品の設計開発及び製造を手掛けられています。社名のFLOSFIAは、流れる(flow)と智慧・叡智(sophia)の造語で、様々な智慧や叡智が流れ込み集まる会社、そしてそれをさらに磨きあげて社会に流し戻すことで、人類の進歩に貢献する会社でありたいという意味を込めて名付けられたそうです。

2019年にISO 9001、ISO 14001を認証取得され、統合システムとして運用されています。業務に沿った仕組みを作られ、経営層の方々を中心に熱心に取り組まれていることで、前回の審査では、「認証4年目の企業とは思えないほど、業務やISO運用プロセスがシステム化され充実している」との審査員のコメントがありました。



GaO® ダイオード



本社工舎 (京都市西京区)

水から半導体を作るミストドライ®法やミストドライ®法で作成されるGaO®(コランダム構造酸化ガリウム)のパワーデバイス応用により、電源・車載・動力領域でのイノベーションの実現を達成すべく活動され、同社の開発製品そのものが環境に大いに寄与するものです。電気自動車や家電、工場の生産設備など身の回りにある様々な電気機器で必要とされる半導体デバイスを超低損失・低コストで開発されている同社は、様々な賞を受賞され、経済産業省が推進する「J-Startup」の認定企業にもなっています。新規パワーデバイスの事業化にとどまらず、パワーデバイスを通じた同社の名付ける究極の省エネ革命「半導体エコロジー®」にもチャレンジされているFLOSFIA様の今後のさらなるご活躍、国内外での展開が期待されます。



同社代表取締役社長 人羅 俊美 氏

<https://flosfia.com/>

連載
よみもの

審査員の心理

第38回 (環境編)

「緊急事態への準備及び対応(1)」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

ISO 14001:2004とISO 9001:2008との対比表(ISO 9001:2008の附属書A“表A.2”)では、“4.4.7 緊急事態への準備対応”に対応するISO 9001要求事項は“8.3 不適合製品の管理”となっていました。ISO 9001が要求しているのは、検査などで発見された不適合製品を適切に処置して適切な状態とする under controlでの管理ですが、ISO 14001(2015年版では8.2項)の緊急事態とは、制御不能(out of control)となったことを仮定した対応で、被害を最小限にとどめたとしても、企業の社会的責任は免れないことがあり得るという違いがあります。

環境側面の特定の際、“緊急時”として挙げられた環境側面については、緊急事態に至らないように管理するのは当然ですが、それでも、発生したことを想定して、有害な環境影響を防止又

は緩和するための処置を計画することが求められています。まずは、緊急時の環境側面が適切に特定されていることが必要ですが、想定できる範囲に限界があるでしょう。事故が発生した場合、往々にして想定外の事態であったと弁明されることがありますが、想定外であることで企業の社会的責任を免れることはできません。工場などでは、取り扱っている原材料などの流出、環境関連設備が制御不能となった場合など、緊急事態として想定できるかもしれません。実際に環境事故を経験した組織にとっては、その事態は緊急事態から外せないでしょう。悩ましいのは、環境負荷の小さい組織、例えばオフィス業務しか行われていない組織では、緊急事態の想定は難しいかもしれません。そのような組織には、外部の“影響を及ぼすことができる環境側面”での環境事故が想定できないか、取り扱っている製品等のサプライチェーンに関わる環境影響が伴うトラブルに対して、何かしらの働きかけができないか、などを想定すると何か出てくるかも知れません。

審査では、その組織の実態から考えられる緊急事態について、想定参考になるような情報提供をしたいと思っています。

審査員リレーエッセイ ⑧

From
岡山県倉敷市
増田 洋志
(ますだ ひろし)

Profile
専門分野：ISO 9001・ISO 14001・ISO 45001—機械設計、設備技術
経歴：三井金属鉱業株式会社、山九株式会社、インターテック
審査員（現職）



審査員からのエッセイをお楽しみください。

「児島歴史探訪」

皆様こんにちは。私は岡山県倉敷市の児島というところに住んでいます。皆様は児島という街をご存じでしょうか。瀬戸大橋を間近に望み、ジーンズの町として有名で、好きな人は全国から来られているようです。先ごろ地元の歴史研究をされている方と児島を歩きながら、



児島の歴史についてお聞きする機会がありました。児島は江戸時代以前は島で、塩田として干拓が進み、昭和以降に塩田の衰退とともに街に変わっていったそうです。今でも塩田だった頃の名残がちょっとした地形に残り、これまで何気なく見ていた風景が、海水を引き込む水路だったり、地形の盛り上がりが塩田を区画する畝だったり、海水引込口の痕跡が残っていたりで目からうろこの体験でした。また児島は古くは古事記にも登場する場所です。倉敷には美観地区という観光スポットがありますが、お越しの際は児島ジーンズストリートまで少し足を延ばされてはいかがでしょうか。

連載「環境とISO 14001」⑧

「水素プロジェクトの乱立/見直される電解法」

環境主任審査員 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

2050年温室効果ガス排出ゼロに向けて発電部門の脱炭素化・再生エネルギー化が進行する中で、産業・家庭の非発電部門での脱炭素化として製鉄用高炉ガス、航空機燃料、家庭用燃料ガス、化学品原料の製造開発が始まっています。これらの代替燃料・原材料として**水素**が重要な役割を果たすことが期待されています。

■「水素」とはどんな物質か

水素は常温では無色無臭の比較的安定なガスですが、分子が小さいため金属を脆化させる、漏れやすい、燃焼範囲が4～75%と広いなどの欠点があり、貯蔵容器や作業場の換気や火気使用には特段の注意が必要です。

また、液化させるためには-250℃以下の極低温にする必要があり、輸送には相応の技術とコストが必要です。

■「水素」の製造法

水素は天然資源には存在しないので水を電気や熱・光エネルギーで分解することで得られます。多くは化石燃料を燃焼させ、水蒸気を吹き込んで得られますが、燃焼に伴う大量のCO₂が排出されます。CO₂の排出を避けて水素を得るには中学の実験でなじみの電気分解法がありますが、水を分解するには目的生成物である水

素の化学エネルギーの数倍の電気エネルギーを加える必要があります。そのため、電気分解法は水素の大量生産には向いていません。

製法による脱炭素寄与を判別するために色分けした名称が用いられています。化石資源から製造され、CO₂の排出を伴う水素を「**グレー水素**」、化石資源から製造され、CO₂を回収・貯留して他の化学品等に転化して排出履歴を消した水素を「**ブルー水素**」、再生可能電力による電気分解で製造される水素を「**グリーン水素**」と呼称しています。最近、欧州連合(EU)は色分けでは不十分であるとして原料供給から製造までの全工程のCO₂排出を明示し、水素生産量1kg当たりのCO₂排出基準を3.4kg-CO₂/kg-H₂以下と定めています。

■乱立する水素プロジェクトと日本

2020年、EU・ドイツが電解法による水素の製造を発表すると、主要国が続々と名乗り出て世界を驚かせています(付表参照)。米国の調査機関によると、2030年の世界の水素需要は1億トン、2050年は5億トンに達すると予測されています。気候変動の影響が深刻になり、CO₂排出削減に一刻の猶予も許されない状況にあること、安価な再生可能電力の入手が可能

付表 世界主要国の水素製造とコスト(目標)

国	生産量	製造コスト
EU	2030年 1000万トン 他に輸入 1000万トン	2030年 2ユーロ/kg-H ₂
英国	2030年 電解槽 20GW (300万トン)	
米国	2030年 1000万トン 2050年 5000万トン	2050年 1ドル/kg-H ₂
中国	2025年 20～30万トン	2025年 4ドル/kg-H ₂ 2030年 2.4ドル/kg-H ₂

インド、オーストラリア、インドネシアも名乗りを上げている

になったことが背景にあります。

日本は早くから水素に着目し、2017年に「水素基本戦略」を発表し、供給目標として2030年300万トンを宣言しています。東京大学が酸化チタンへの光照射で水が酸素と水素に分解することを発見し、その応用研究を続けていることを背景に、2014年に**人工光合成**(水から水素を取りこみ、CO₂と反応させてメタンを得る)プロセスの開発が始まりました。2021年実装テストで一定の成果は得られたものの、光変換効率が目標レベルに達せず、更なる研究を要することが判明しました。よって、2023年6月の「改定水素基本戦略」では2030年までに中規模の水電解装置を導入し、水素利用の展開には海外の安価な低炭素水素を輸入するとしています。



お客様
からの
お便り

中華麺の歴史を変える

ありがとう製麺株式会社 (ISO 22000:2018 認証登録)

次長 渡邊 豊

No.01
Letter



本社・工場

当社は、1974年に長野市で創業し、2022年にISO 22000を認証取得しました。認証範囲は「生麺・餃子の皮の製造」です。

例えば、ラーメン店様ごとに、スープの味は違います。であれば、当然ラーメン店様の数だけ「麺」の数もあるはずです。重要な素材である小麦粉は、産地の選択、挽き方等細部まで吟味し徹底した管理体制の中で取り扱いをしております。その上でお客様のご要望に対してベストな形でご希望の「中華麺」をお届けできるよう努力を重ねております。

近年、中華麺最大の添加物である「かんすい」ゼロの生麺を開発しました。しかも従来の中華麺に引けを取らな

いどころか、はるかに上回るほどの完成度です。更に中華麺のコシを育むための食塩も思いきって省きました。

“オーダーメイドの麺作りを通して、こだわりスープの良きパートナーでありたい” 社員一同その思いで日々、試作、検査、研究、開発に邁進しております。



工場内の作業風景

▶ <https://arigato-seimen.jp/>

子や孫、ひ孫の時代まで自然を残す解体業者

アイ・アール株式会社 (ISO 9001:2015、ISO 14001:2015 認証登録)

法務部長 山城 勇太

No.02
Letter



再生路盤材製造機

当社は沖縄県で解体業及び産業廃棄物収集運搬・中間処理業を営み、2022年にISO 9001及びISO 14001の認証を取得しました。

那覇市小禄に本社を構え、うるま市具志川に産業廃棄物中間処理を行う工場があります。解体工事は公共から民間まで幅広く行っており、解体工事で発生した建築廃材を工場のプラントで異物除去・破砕し、リサイクルした再生路盤材の生産・販売を行っております。本来であれば最終処分場で埋め立てて捨てられるはずの廃材を再利用することで、環境にやさしい循環型社会の実現を推進しています。

また、当社の再生路盤材は沖縄県リサイクル資材評価認定制度(ゆいくる材)の認定を受け、公共工事で積極的に使用する対象に選ばれており品質にも自信があります。

当社は「捨てればゴミ 使えば宝だ リサイクル」をモットーに、いかに捨てられるはずのゴミを資材として生まれ変わらせ、再利用できるかを考え、沖縄の海をはじめとする綺麗な自然を次の世代へと繋いでいくことに尽力してまいります。



工場の従業員のみなさん

▶ <https://ir-corporation.com/>



年の干支は甲辰(きのえたつ)。『甲』は十干(じっかん)の最初にあたり、種子などの外殻や外皮を意味することから生命の芽生えの象徴といわれ、『辰』は「振」るうの意味から、勢いが盛んで草木が伸長する状態を表しているそうです。

十干は、十干(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)と十二支(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)を組み合わせたもので、60年で一巡し、六十干支(ろくじっかんし)とも呼ばれます。そのため、60歳が還暦といわれ、節目を祝うだけでなく、新しい門出を祝う意味も持ち、長年大切にされています。

十干は、もともとは日を10日のまとまりで数える呼び名で、10日ごとのまとまりを「一句」といいました。ひと月を10日ごとに分けて、上旬、中旬、下旬と呼ぶのはこの旬に由来しています。また、十二支は、古代中国で尊い星とされていた木星の運行が元になっています。木星の公転周期が12年であることから、天を12等分し、それぞれの位置を表す名前を付けたのが起源とされています。農耕には欠かせない時刻や方位の呼び名として用いられ、草木の一生や自然界のサイクルを意味していた十二支は、その後それぞれに動物を当てはめたことで人々に浸透したといわれていますが、他にも諸説はあるようです。

ちなみに、高校野球の聖地、また阪神タイガースの本拠地としても知られる

阪神甲子園球場が誕生した1924(大正13)年は、「十干」と「十二支」それぞれの最初である「甲」と「子」が60年ぶりに重なる縁起の良い年ということで、「甲子園」と名付けられたそうです。昨夏の高校野球では107年ぶりに慶応高校が優勝し、プロ野球では阪神タイガースが38年ぶりに日本一となりました。今年100周年を迎える甲子園球場での熱い闘いが期待されます。また、今年はフランス・パリでの夏季オリンピック・パラリンピックも予定され、新種目ははじめ、世界のアスリートたちのパフォーマンスも今から楽しみです。

今年は十二支の中で唯一実在しない架空の動物の辰＝龍年。龍は、中国では、麒麟、鳳凰、霊亀(想像上のカメ)と並んで四種の霊獣の一つで、四種の中でも最も力のある動物とされていることから、権力者のシンボルとして扱われていました。天に舞い上がる姿から物事の向上や成長など活気にあふれる様子を表し、力強さや成功を象徴することから新たな始まりやチャンスの年ともいわれます。今年は、弊社日本法人設立30周年の年にあたります。さらなる躍進に向けて進歩ある年にしたいと思っておりますので、本年も何卒よろしく願い申し上げます。皆様方におかれましても、新しい年が飛躍の1年となりますよう、心よりお祈りいたします。(参照: 国立国会図書館、ブリタニカ・ジャパン、甲子園100周年記念サイト)

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。(https://ba.intertek-jpn.com/study/)

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO 9001 (5日間) / ISO 14001 (3日間) / ISO 45001 (3日間)
※ISO 14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。
詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京(弊社東京事務所)

日程 ● ISO 9001・・・3/21(木)～25(月)
● ISO 14001・・・5/17(金)～19(日)
● ISO 45001・・・6/14(金)～16(日)

ISO 27001:2022コース/オンライン

ISO/IEC 27001:2022 版への移行対応コースです。

- 規格解釈コース
- 内部監査員養成コース

日程 3/29(金)

日程 5/10(金)

※各コースの詳細については、弊社ホームページをご参照ください。



オンラインセミナー

各種オンラインセミナー好評開催中！
各規格(ISO 9001/ISO 14001/ISO 45001/ISO 27001等)の内部監査員養成コース及びISO 14001を活用したSDGsセミナー等を開催しております。また、従来の講師派遣型セミナーもオンライン対応可能です。

*弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からの
お便り

ISO 9001 内部監査員養成コースを受講して

品質内部監査員養成コース(2023年10月大阪会場)受講

株式会社加藤均総合事務所 営業部 課長 荻田 章博

当社は、病院清掃を主としたビルメンテナンス業務を行っております。2000年にISO 9001、2001年にISO 14001を認証取得しております。以前より内部監査にはオブザーバーとして参加した経験はありましたが、今後は本格的に内部監査員としての役割を果たすため、今回のISO 9001:2015 内部監査員養成コースに参加させていただきました。

コースでは、最初に講師の方から各参加者の内部監査の理解度の確認があり、ほとんどがこれから内部監査員になる方々でしたので、テキストにある言葉の解説から、各項目の流れを丁寧に教えていただきました。また座学だけでなく、実際の監査を想定した演習もあったので大変分かりやすく学べました。今回、内部監査全体を改めて学ぶことができたので実際の監査に活かしていきたいと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 <https://ba.intertek-jpn.com/>

東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア TEL: (03) 3669-7408 FAX: (03) 3669-7410 E-mail: info.ba-japan@intertek.com

大阪事務所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575 E-mail: info.ba-osaka@intertek.com